

529  
M

刑  
官  
城  
縣  
誌

全

宮城縣教育會中央部編

刑  
宮城縣誌  
全

明治三十三年五月發行

凡例

- 一、本書は、縣下小學校地理歴史初步の教授に充てんが爲に、編纂せるものにして、地誌と史蹟とを併せ記し、名づけて宮城縣誌といふ。
- 一、本書の教量は、凡六十時間の豫定とす。
- 一、本書の教材は、最要領を摘みて要曲に涉らず、教師をして教習の餘地あらしめんが爲なり。
- 一、各郡市小學校に於ては、必しも、本書の順序に據るを要せず、適宜之を變換し、又は、特に必要とする教材は、之を補加して教授せんことを要す。

13501

A

一本書中今より何年前と記したるは、明治三十三年を基點としたるものなり。

一本書の語統計は、最近の調査に據れり。近年、變遷を來すものなれば、教授の態度之に注意せんことを要す。

一本書は第一版の宮城縣誌を修正せるものなり。故に記事の順序も、亦、原本に準據せり。

明治三十三年三月

## 目次

### 第一編 特誌

第一課 仙臺市

第二課 刈田郡

第三課 柴田郡

第四課 伊具郡

第五課 亙理郡

第六課 名取郡

第七課 宮城郡

丁

一

八

十

十

十二

十二

十三

第八課 黒川郡……………十七

第九課 加美郡……………十九

第十課 志田郡……………二十一

第十一課 玉造郡……………二十三

第十二課 遠田郡……………二十五

第十三課 栗原郡……………二十七

第十四課 登米郡……………二十九

第十五課 桃生郡……………三十一

第十六課 牡鹿郡……………三十三

第十七課 木古郡……………三十五

第二編 通誌

第十八課 境域……………三十七

第十九課 地勢……………三十九

第二十課 氣候……………四十一

第二十一課 都會……………四十三

第二十二課 交通……………四十五

第二十三課 物産……………四十七

第二十四課 沿革……………四十九



| [Title] |     |
|---------|-----|
| 一       | ... |
| 二       | ... |
| 三       | ... |
| 四       | ... |
| 五       | ... |
| 六       | ... |
| 七       | ... |
| 八       | ... |
| 九       | ... |
| 十       | ... |
| 十一      | ... |
| 十二      | ... |
| 十三      | ... |
| 十四      | ... |
| 十五      | ... |
| 十六      | ... |
| 十七      | ... |
| 十八      | ... |
| 十九      | ... |
| 二十      | ... |

宮城縣管内圖



仙臺市内圖



仙臺宮城縣誌

第一編 特誌

第一課 仙臺市

仙臺市は、其の位置殆、本縣の中央にあり、西は一帶の山にて、廣瀬川、其の麓を流れ、東は宮城野の平野に連れり。市の大きさは、東西三十町、南北之に二倍す。人口七萬餘あり。

市の中央、十字の衢を芭蕉辻といひ、大町



國分町・南町等  
繁華なる町々  
は概其の近傍  
にあり

芭蕉辻は昔盧  
無僧芭蕉とい  
ふもの住みけ  
るより此の名  
ありとすこゝ



に本縣里程の元  
標あり。

辻より西へ行け  
ば大橋の鐵橋に  
出づ其の傍に公  
園あり第二師團  
司令部は直に其  
の前面に當れり  
是即仙臺城趾に

して之より殿橋に至るまでを川内といひ、其の間多くの兵營あり、其の南なる經峰に、仙臺落祖伊達政宗公の廟あり、瑞鳳殿といふ結構美麗なり。

政宗公は輝宗公の子なり、今より凡三百三十年前、出羽米澤に生れ、幼名を覺天丸といへり、幼き時嘗て一寺院に遊び、不動の像を見て、佛は柔和なるものと聞くに、これは何とて恐ろしきやと問ふ、寺僧答

へて、さればなり、不動は其の面誠に恐ろしげなれど、心はかへりて優しきものに候といひければ、公實にもど顔きて、武將の心得亦かくあるべし、とい



はれけり。

十八歳にて、家を繼がれ、それより四方を  
征伐して、武勇の譽、世に高く、遂に會津、關  
島、白河の地方を攻め取りぬ。豊臣秀吉公  
全國の政治を取るに及びて、封を米澤、仙  
臺の地方に移さる。これより後は、豊臣徳  
川二氏に仕へて、武功多く、當時の大名、う  
の威に服せぬものはなかりき。朝鮮征伐  
の時、亦一方の大將として、彼の國に渡り、  
戦功いと多かりき。今市の公園に、朝鮮梅  
どて、一株の古木あるは、凱旋の折、彼の國  
より携へ來られしものなりといふ。  
初政宗公、米澤の城にあり、後岩出山イハヒに  
移りしが、土地偏狭なるを以て、慶長五年、  
改めて、城を仙臺に築き、町をこゝに開き、  
爾來學問を勵まし、産業を起こし、水利を  
開くなど、人民の利益を圖られしこと、湯  
からず、かくて寛永十三年ニ七十歳

にして、江戸に奠じぬ、蓋して貞山といふ。

伊達氏の五墓

伊達氏の五墓

伊達氏の五墓

伊達氏の五墓

伊達氏の五墓

伊達氏の五墓

縣廳は、芭蕉辻の東北にあり、昔養賢堂といひし舊藩の學校にて、其の建物、今猶舊形を存せり。縣會議事堂、市役所、物産陳列場等、其の近傍にあり。

養賢堂は、今より凡百六十年前、伊達吉村公の立てし所にて、初、學問所と稱せしが、後、重村公に至りて、更に之を擴めて、養賢堂と名づけぬ時に、藩の儒者、大槻民治（大槻）其の學頭となりて、大に力を盡しし

かば、學事之より振ひ興れり、この學校は明治の初まで、引續きて、文武の諸道を授け、れば、其の間、人材を出し、こ



支倉神社

ど勝からず、且、其の建築の大にして、備はれること、日本第一なりしといふ。

北山の青葉神社は、政宗公の靈を祭れるどころにて、支倉六右衛門林子平の墓、其の東西にあり。

支倉六右衛門支倉六右衛門は、名を常長常長といひ、今より凡三百年前、政宗公の命を受け、遠く西洋に使し、八年の久しきを経て、歸りし人なり、後二年、病みて歿す、北山の光明寺



門下ニハ全ク

に葬る。  
 林子平  
 \*は名を  
 友直とい  
 ひ、號を大  
 無齋とい  
 へり。今よ  
 り凡百年前の人なり。博學多藝にして、殊  
 に外國の地理に通じ、見識人に勝れしか



林子平

どかへり  
 て之が爲  
 に勲を招  
 き、遂に病  
 みて歿せ  
 り。其の墓  
 龍雲院に  
 あり。明治十五年、朝廷其の生前の功を賞  
 して、正五位を贈らせ給ふ。

市の東端なる郡、岡、岡は、櫻花を以て名あり、こゝにも亦兵營あり。

此の他、類市内に多くの學校及諸官衙あり。

物産は、織物を第一とす、殊に仙臺平八織物は、最精巧と稱せらる。この外、綿織、埋木細工等を産す。

絹織物は、今より凡百八十年前、京都の職工、小松彌右衛門といへるもの、仙臺

に來りて、其の織方を傳へたるより始まれりといふ。

仙臺は、本縣の中心なるを以て、道路四方に開け、加ふるに、鐵道の便ありて、東京青森への往來自在なり。

第二課 刈田郡

白石町は、白石川の右岸にあり、人口七千餘、仙臺以南第一の都會にして、郡役所の



在るところな  
 り、仙臺を距る  
 こと十三里、  
 紙布温  
 頗は、此の地の  
 産にて、郡内の  
 生絲、紙、葛、粉等  
 も皆こゝに集  
 まり、賣買盛な

り、町に、白石の城趾あり、代々片倉氏の居  
 りし所なり。

片倉氏の祖、小十郎（たかむね）は、名を景綱とい  
 ひ、政宗公の重臣にて、所々の戦に従ひ、毎  
 に大功ありし人なり、其の裔、景光に至り、  
 北海道開拓の功に因り、近年華族に列せ  
 られたり。

町に近く、徳先、小原の温泉あり、刈田嶽は、  
 郡の西北隅に聳えたる高山にて、又、藏王



山どもいふ古不忘山といひしは是なり  
頂に噴火口の跡あり今猶蒸氣を噴出す  
東麓を七日原といひ多く牛を牧ふ遠刈  
田の温泉は其の東北にあり  
東南の郡界なる厚樫山は昔藤原泰衡が  
北に園を構へて源頼朝公を防ぎし古戦  
場にて世に伊達の大木戸と稱す  
白石町より西に向ひ湯原を経て山形縣  
に出づる街道あり之を七宿越といふ

第三課

柴田郡

大河原町は白石川に跨り郡役所の在るどころにて鐵道の便あり

村田町は其の



柴田郡

北二里半にある一小都會にして、孝子長  
吉の墓あり、大河原町より北の町を經、笹  
谷峠を越えて、山形縣に出づる道路を、笹  
谷越といふ峠の南に、熊野岳の高峯あり  
て、刈田岳に連る、其の東に、有名なる青根  
の温泉あり。

第四課 伊具郡

角田町は阿武隈川に沿ひ、郡役所の在る  
所にて、生絲の賣買盛なり、阿武隈川

阿武隈川は、

福島縣より來り、郡の中央を  
流れ、柴田郡に  
入りて、白石川  
を合せ、荒濱（荒濱）  
に至りて、海  
に注ぐ、此の川  
全長五十里な  
れども、郡内を



流るゝこと僅に十三里和船往復の便あり。

金山町及丸森町は赤其の沿岸にあり、生絲、蠶種の産地にて、金山の製絲場は精貝の生絲を出すを以て、全國に名あり、近傍又、貝質の花崗石を出す。

郡の西南に駒ヶ山、東南に旗巻峠あり、柴田郡の槻木村より角田を経て、福島縣の梁川町に出づる道路を、梁川街道とい

ひ槻木角田間には馬車鐵道の便あり。



第五課

亘理郡

亘理町は、

陸前濱街

道

亘理町は、  
陸前濱街  
道

の一小都會にて、郡役所の在る所な

り、伊達氏の支族成實以後代  
代こゝに居り、仙臺領の要害なる場所な  
りき、其の東なる荒濱は阿武隈川の海に  
注ぐ所にて、島海の鹽田あり。

伊達成實は實元の子にて、政宗公に  
仕へ、戦功甚多かりき、其の裔邦成に至り、  
北海道開拓の功により、近年華族に列せ  
られたり。

第六課 名取郡

岩沼町は郡中  
第一の都會な  
り、此の地は陸  
羽街道と陸前  
濱街道と相會  
し、又東北鐵道  
と常磐鐵道と  
相會する所な  
り。



竹駒神社は、凡、一千年以前の創建にて、毎年社前の馬市盛なり。

町より西方に、一帯の山あり、巨松其の峯に連る之を千貫松といふ、舟人の目標となるを以て、有名なり。

阿武隈川より名取川に至る間の平野を、名取廣土といふ、南北に延びて、亘理宮城の二郡に及び、米を産すること甚多し。

阿武隈の川口より、海岸に沿ひて、阿上濱

を貫き、鹽竈河に至る八里餘の運河を、

貞山堀といふ。

増田町は、岩沼の北にあり、衣笠の松、其の名高し。

長町は、仙臺市の南に續きて、郡役所の在る所なり、其の西なる大年寺に、綱村公以後、伊達氏代々の墓あり、之より名取川に沿ひ、山形縣に出づる街道二あり、一を二日越といひ、一を笹谷越といふ、二日

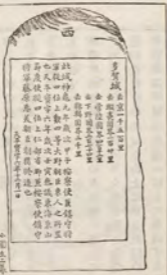
越の沿道に秋保温泉及大瀧の瀑布あり。

第七課 宮城郡

仙臺市の東に續く町を原町といふ郡役所の在る所なり。

其の南七郷村に國分寺の跡あり村内舊日は有名なる力士谷風の生れし所にて其の墓亦此の地に在り。

多賀城村に多賀城の跡あり此の城は今より凡一千二百年前蝦夷征伐の爲大野



東人の建てしところにて、其の古碑、今猶  
存せり、其の後、亦、陸奥の國府も、此に置か  
れしが、後村上天皇、猶、義良親王と申し、  
どき國の大守として、三年餘北に留まり  
給ひにき。

鹽竈町は、松島灣に隔める繁華の港にて、  
船の出入多く、商賈賑へり、鹽  
竈神社は、町の北なる山上に在り、社殿の  
宏壯なること、本縣第一にして、參詣する

もの常に絶ゆ  
ることなし、又、  
市中に神燈の  
社あり、因の大  
なる銀の釜を  
祭る、おほむか  
し、鹽を煮しも  
のなりといふ、  
鹽竈の名は、鹽

